

# がんばった運動会！

## 1年

松永 美知子

入学して約2カ月後。「運動会」という大きな行事を99人全員で乗り切ることができました。

「キラキラ100%」では、ポンポンをもち、リズムにのって、笑顔いっぱい、元気いっぱい可愛らしく踊ることができました。練習の時には、自分の立ち位置や友達との距離感を覚えることに苦戦しましたが、本番では、気持ちを一つに表現することができました。

団体競技の「玉入れたヨ！全員集合」では、昔懐かしい曲に合わせて、リズムカルに楽しいダンスを披露しました。みんなで力を合わせて真剣に玉入れをすることもできました。

これらの経験を、今後の学習活動へと生かしていきたいと思います。保護者の皆様には、大きなご声援や励ましの言葉をいただきまして、本当にありがとうございました。



## 2年

瀧脇 稔尚

2年生は、『ちゃーびらさい』を踊りました。四つ竹を手に握り、元気に踊ることができました。ちゃーびらさい名人をめざし、みんなでより上手に踊れるように練習に取り組んできた成果を運動会当日に発揮することができたと思います。踊り終わった子供達の笑顔が素敵でした。

『50m走』はどの子どもとても緊張していたようです。スタートの位置についたときに、子供達の顔がとても引き締まっていました。ゴールまでの数秒間をしっかりと全力で駆け抜けることができたと思います。

『はしって、ねらって、まとたおせ』では練習の初めの頃はなかなか的を倒すことができませんでしたが、段々強く玉を強く投げることができるようになりました。しっかりと狙って投げることができ、子供達の成長を感じました。



## 3年

伊藤 裕樹

今年の3年生は「お江戸はカーニバル！」というアップテンポの中にも歌舞伎の要素を取り入れた曲で踊りました。子供たちはどんな踊りをするのかとても楽しみにしていたようで、初めて曲を聴いたときから笑顔で練習する子供が多くいました。「静」の部分から始まり、テンポよく踊るところも指先から首の回し方、目線などにこだわり、和のテイストを感じられるような踊りになるようにしました。動き出すポイントを覚えることや、立ち位置を前後左右で合わせるなど、大変なこともありましたが、本番では笑顔と元気いっぱいで、生き生きと子供たちは踊っていました。

この元気の良さを今後の生活にも引き続き生かしていきたいです。





## 4年

伊藤 聖矢

4年生は、「ZENRYOKU」をテーマに、ディズニーランドの夏祭りでも使われたダンスに挑戦しました。

テンポも早く、細かくもダイナミックな振り付けに最初は苦労していましたが、めげることなく、子供たちからは「楽しい！」という声が多く聞こえました。練習を重ねるにつれ、徐々に気持ちが入ってくる子供たちに成長を感じました。

保護者の皆様には、練習期間から本番まで、たくさんの励ましの声やご声援をいただき、ありがとうございました。今後も担任一同「ZENRYOKU」で指導を続けていきますので、よろしくお願いいたします。



## 5年

高橋 諒

5年生はソーラン節に挑戦しました。とてもテンポが早く、それでいて動きがとても激しい踊りのため、最初の練習では殆どの子供たちが音についていくのがやっとの状態でした。

そこから、運動会実行委員を中心に何回も練習を重ねていきました。中には、20分休みや昼休み、家に帰ってから練習する子供たちもいました。そして、運動会の一週間前には運動会実行委員が話し合っただけで決めた「大北魂」という言葉を自分たちのTシャツに塗ると子供たちのやる気も更に盛り上がってきました。まさに一人一人の「大北魂」がこもった演技ではなかったでしょうか。これから更に子供たちが高学年として成長していけるように担任一同指導を続けていきたいと思えます。ご協力ありがとうございました。



## 6年

京田 華子

今年度の組体操は、様々な懸念がある中実施に踏み切りました。高さや技の制限はありましたが、「この子供たちならできる！」という強い思いのもと、動きを揃えるための笛の合図や、隊形を揃えるためのラインを一切使わずに行ったことは、今までにない新たなチャレンジでもありました。

「融合～You go.～」というテーマのもと、本番では103名全員が音楽に耳をすませ、隊形が揃うよう位置を確認し、最後の運動会だという今までにない緊張を感じながら演技していました。子供たちはやり遂げたという達成感や最高学年としての誇りを感じることができたようです。

また、6年生として前日準備や係の仕事、片付け等の仕事に携わることで、運動会が保護者の方や地域の方、そして大北小の伝統に支えられ成り立っていることに気付くことができたことも、子供たちにとって大きな成長だと考えます。

練習での辛さを乗り越えたからこそ得られた喜びや一体感を自信にして、卒業に向かって6年生全員が新たな一歩を踏み出しています。温かいご声援本当にありがとうございました。

